

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社ゆうらく		ホーム名	介護付有料老人ホーム「遊楽館」青葉			ID	2909	
	評価機関	株式会社ケアシステムズ				評価日	2018. 1. 19		
スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	
1. 1. 1	B	B	2. 3. 3	A	A	6. 1. 2	A	A	
1. 1. 2	B	B	2. 3. 4	C	C	6. 1. 3	A	A	
1. 1. 3	B	B	2. 3. 5	B	B	6. 2. 1	A	A	
1. 1. 4	B	B	2. 3. 6	C	C	6. 2. 2	A	A	
1. 2. 1	A	A	2. 3. 7	C	C	6. 2. 3	A	A	
1. 2. 2	C	B	2. 3. 8	B	B	6. 2. 4	A	A	
1. 2. 3	C	A	2. 3. 9	A	A	6. 2. 5	A	A	
1. 3. 1	C	B	2. 3. 10	A	A	6. 2. 6	A	A	
1. 3. 2	C	B	2. 3. 11	A	A	6. 2. 7	A	A	
1. 3. 3	B	B	2. 4. 1	C	B	6. 2. 8	A	A	
1. 4. 1	B	A	2. 4. 2	B	B	6. 2. 9	A	A	
1. 4. 2	B	B	2. 4. 3	A	B	6. 3. 1	B	B	
1. 4. 3	A	A	2. 4. 4	A	A	6. 3. 2	A	A	
1. 4. 4	A	A	2. 4. 5	A	A	6. 3. 3	C	C	
1. 4. 5	A	A	2. 4. 6	A	A	7. 1. 1	A	A	
1. 4. 6	C	C	3. 1. 1	A	A	7. 1. 2	A	A	
1. 4. 7	A	A	3. 1. 2	A	A	7. 2. 1	A	A	
1. 4. 8	B	B	3. 1. 3	B	B	7. 3. 1	B	B	
1. 5. 1	A	A	3. 1. 4	A	A	7. 3. 2	A	A	
1. 5. 2	A	A	3. 1. 5	非該当	非該当	7. 3. 3	A	A	
1. 5. 3	B	B	3. 1. 6	C	C	7. 3. 4	A	A	
2. 1. 1	A	A	3. 1. 7	B	B	7. 4. 1	A	A	
2. 1. 2	C	C	4. 1. 1	B	B	7. 4. 2	A	A	
2. 2. 1	A	A	4. 1. 2	C	B	7. 4. 3	A	A	
2. 2. 2	A	A	4. 1. 3	A	A	7. 4. 4	B	B	
2. 2. 3	非該当	非該当	4. 1. 4	B	B	7. 4. 5	A	A	
2. 2. 4	A	B	4. 2. 1	A	A	7. 5. 1	A	A	
2. 2. 5	非該当	非該当	4. 2. 2	A	A	7. 5. 2	A	A	
2. 2. 6	B	B	5. 1. 1	C	B	7. 5. 3	A	A	
2. 2. 7	A	A	5. 1. 2	B	B	7. 5. 4	A	A	
2. 2. 8	A	A	5. 2. 1	B	B	7. 5. 5	B	B	
2. 2. 9	非該当	非該当	5. 2. 2	A	A	7. 5. 6	B	A	
2. 2. 10	非該当	非該当	5. 2. 3	A	A	7. 5. 7	A	A	
2. 2. 11	C	C	5. 2. 4	A	A	7. 6. 1	B	A	
2. 3. 1	A	A	5. 2. 5	A	A	7. 6. 2	A	A	
2. 3. 2	B	B	6. 1. 1	A	A	7. 6. 3	A	A	

評価機関所見（評価機関記入シート）

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
7-5-6	全室個室を採用しており、個人を尊重した「その人らしい居住空間」作りに心がけている。共有スペースは、利用者間の交流や憩いの場として機能するよう工夫しており、1階、2階ともに大きめの窓から公園の景色が楽しめるようになっている。採光も十分取り入れられ快適な空間が整備されている。食事や入浴はある程度一定の時間を設定しているが、それ以外は原則自由とし思い思いに生活できるようにしている。離床を促がし共有スペースで生活してもらうことに力を入れているが、居室で自分の時間を過ごしたり、ベッドで好きな時間に横になったりすることもできるようにしている。利用者が落ち着いて生活できるための取り組みとして、大切にしているものや馴染みの品は概ね自由に持ち込めるようにしたり、共有スペースにはソファを配置したりすることで家庭的な雰囲気作りに努めている。
4-2-2	地域の社会資源の活用に力を入れており、入居者が楽しめ、さらに地域で生活している実感を持ってもらえるようにしている。地域で開催される夏祭り、七夕、花火大会などへの参加をはじめ、春には桜や外食をみんなで楽しむ機会などを設けている。また、それらの機会には、地域の子どもたちと交流に加え、ホーム前の花壇の整備や館内清掃に訪れるボランティアと交流できる機会も設けている。サイクリングロードなどで外気浴を兼ねた外出機会をさらに充実させることを目指している。さらに、市報などの情報紙は玄関エントランスへの常置や各ユニットに配布して、地域の情報を利用者に伝えている。
1-4-1	法人本部において年間を通じた職員研修プログラムを作成しており、出勤扱い（研修及び交通日は法人負担）によって各種の研修に参加出来るようにしている。参加にあたっては、希望は把握して必要な研修への受講を促したり、法人として参加してほしいとする研修を勧めたりして、バランスよく参加出来るようにしている。研修テーマとしても、「認知症周辺症状」「デスクカンファレンス」「感染症対策」「介護負担の軽減と腰痛対策」など実践的なテーマを中心としている。また、職員参加後には報告書を作成したり、必要に応じて全体会議やフロア会議で報告したりして習得状況を振り返り、内容を共有することができるようにしている。研修体制を強化して、組織全体の質の向上に取り組んでいることは高く評価出来る。
◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
2-3-6	法人として中期の事業計画をもとに事業所の実情などを加味し、事業所としての単年度の事業計画書を策定している。年初の全体会議において事業計画を職員に説明し周知に努めている。さらに、単年度計画を円滑に実施できるように職員用の実施計画書（アクションプラン）を作成したり、定例の全体会議などの場で進捗状況を確認したりしながら、成果や課題を明確にして推進することも検討されたい。必要に応じて修正や見直しを行い、計画の達成に向け取り組む仕組み作りが望まれる。年度末の全体会議において事業計画の総括を行い、次年度に向けた課題を抽出することが望まれる。事業計画のPDCA（計画・実行・評価・見直し）サイクルを回し取り組むことを期待したい。
2-3-4	事業所では入所時の面談をはじめ、年1回開催している運営懇談会、ケアプラン作成・見直し時の時ヒアリングなどにおいて、事業所から重要な案件を伝えたり、意向や要望を傾聴する機会と位置付けている。また、定期的に食事に関する嗜好調査も実施しており、把握した意見をもとに献立に反映させることにしている。さらに、利用者や家族を対象とした運営全般に関するアンケートの実施などによって、意向や要望を詳しく把握し、結果を事業所運営に還元するような取り組みも検討されたい。事業所が目指している「家族と一緒に利用者を支援する」という考えを具体化する仕組みを充実させることが望まれる。
2-4-3	リスクマネジメントの充実を図るために、事故や急変時の対応マニュアルを設けたり、危機管理に関する研修に職員を参加させたりして、安全性の高い事業所運営に取り組んでいる。緊急時対応マニュアルには、急変時の役割分担も明示している。事故やヒヤリハットについては都度報告書を提出し、全体会議などの機会を通じて話し合い再発防止に取り組んでいる。ただし、ヒヤリハットの事故のバランスが図れていないことや、事故内容が一定の業務に集中していることが懸念される。さらに、1件1件の報告書をもとに、ヒヤリハットや事故の分析を丁寧に行うことが望まれる。